

# 産婦人科・小児科と公共交通機関の整備を

西脇高校2年生 西嶋綾乃さん



加東市には、子どもを持つ親を支援してくれる制度が多くあります。また、保育所の待機児童がないという、素晴らしい現状もあります。しかし、小児科医院は少な

く、産科は過去に市民病院にありましたが、現在はなく、市内で子供を産むことはできません。私が子供を産む立場になったとき、出産できる病院がなかったり、子どもを診てもらえる病院が少なければ、加東市に住みたいとは思わな

老夫婦が多く住んでおられます。しかし、鴨川地域から市街地や市民病院へ行くバスは少なく、土・日・祝日には便が全くありません。運転ができない高齢者には、とても不便だと思っています。また、今は自動車などを運転できる若い人でも、将来運転ができなくなったときのこ

# 街灯、遊具、アフタースクールなどの充実

兵庫教育大学1年生 井上陽香さん

加東市民に加東伝の助のこ

な遊具を設置してもらいたい

とを知ってもらうために、いろんな行事に参加させ、加東市といったら、加東伝の助となるようになってほしいです。都市部へのバスはたくさんあります

今は共働きの人たちが増えてきて、その人たちが安心して子どもを預けられるよう、アフタースクールを充実させてほしいと思います。加東市には兵庫教育大学が

大学生と市民が交流する機会を増やせば、もっと楽しく、住みたいと思えるまちになるのではないのでしょうか。



# 見える、分かる、関われるまちに

兵庫教育大学3年 久保田悠生さん



加東に住み始めて3年目ですが、「もったいないまち加東」と思っています。もったいないのは、自然と交通と人です。その3つを生かすため、「見える、分かる、関われるまち加東」にすることを提案します。

「見える」とは、加東市の良いところが分かるような、広報紙やケーブルテレビなどのシステムです。「分かる」とは、「参加してみようかな、行ってみようかな」と思えるイベントや行事

富な人材を、市のイベントなどでどんどん使ってほしいと思います。そして、これらが機能するためには、交通が必須です。最寄り駅を何とか近くしたいのです。難しいかもしれませんが、鉄道を引いて、「社高校前駅」などができれば、もっと住みやすいまちになるのではないのでしょうか。

発表後に行われた意見交換では、多くの学生から「通学路の街灯整備」に関する要望が出されました。

それを受け、平成24年12月19・20日に、市長と教育長が市内3中学校の生徒とともに要望箇所を視察。安全で安心できる通学路整備に取り組んでいます。

市では、今回の学生フェスタでの意見を施策に反映させていくとともに、次代を担う若者が、「加東市に住みたい、住み続けたい」と思えるまちづくりを今後も積極的に進めていきます。



中学生とともに現場を視察する安田市長(左)